

2 日本に入れさせない

➤ 動植物検疫探知犬の増頭

- ・追加措置し、140頭体制に強化（2021年3月末時点）

➤ 畜産物の違法な持込みに対する対応の厳格化（2019年4月22日～）

- ・個人消費用やお土産用であっても、警察への通報又は告発の対象として警告書を交付（2019年4月22日～2022年12月31日の間に約2,500枚を交付）
- ・違反者情報をデータベース化し、関係省庁と連携して対応（逮捕事例あり）

➤ 高リスク便に対する携帯品検査の重点実施

- ・動植物検疫探知犬による探知や家畜防疫官による口頭質問を重点的に実施
- ・税関と連携した検査を実施

➤ アフリカ豚熱発生国からの豚由来畜産物の検査強化

- ・2023年2月17日現在、携帯品畜産物（生に近くリスクの高い物）をPCR検査、109件からアフリカ豚熱ウイルス遺伝子を検出（うち4件からアフリカ豚熱ウイルスを分離）

国際郵便物の検査を強化

- ・動植物検疫探知犬の活用を拡大

➤ 各空海港における靴底消毒及び車両消毒の徹底

➤ 船舶・航空機の食品残渣の適切な処理について、事業者への確認・指導を継続的に実施



動植物検疫探知犬による探知活動

3 農場に入れさせない

➤ 野生イノシシ対策を見据えたごみ対策の協力依頼

- ・環境省及び国交省を通じて、野生動物がいるような公園でのごみ対策の協力依頼を自治体、関係部局等に通知

➤ 食品原料に由来する飼料の加熱について都道府県や生産者団体等を通じて農家に徹底

家畜伝染病予防法違反事案の対応の厳格化概要

1. 申告がないのに肉製品等の所持が**発覚**
2. 違反者の**パスポート情報等をデータベース化**
3. **警告書**の交付
4. **悪質性が認められる場合は警察に通報・告発**
5. **罰則**は三年以下の**懲役**又は**300万円以下の罰金**
(**法人に対しては最高5,000万円**)

※令和2年7月1日に
家畜伝染病予防法一
部改正の施行に伴う
罰則強化

税関検査場



動物検疫所カウンター

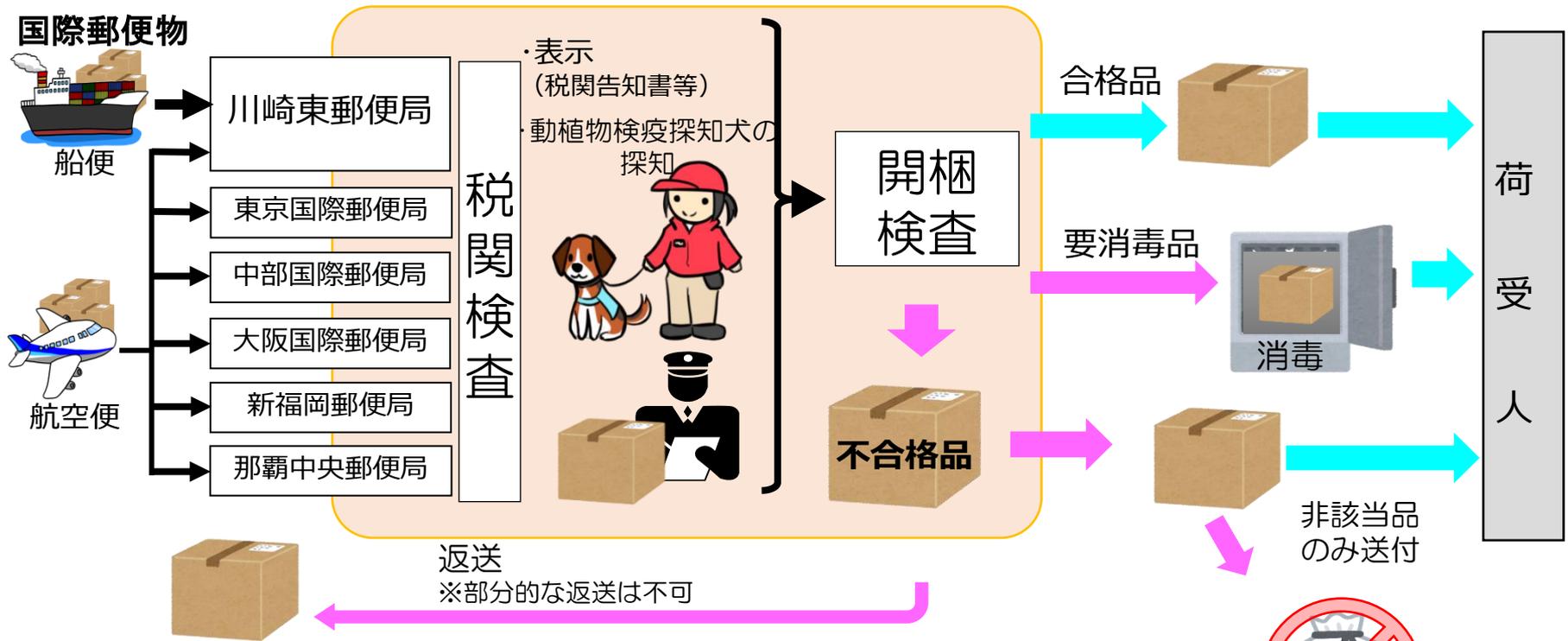


悪質な場合



国際郵便物の輸入検査

- 全国の国際郵便局（6か所）において、日本郵便及び税関と協力して検査を実施
- 権限強化等による違反品の急増



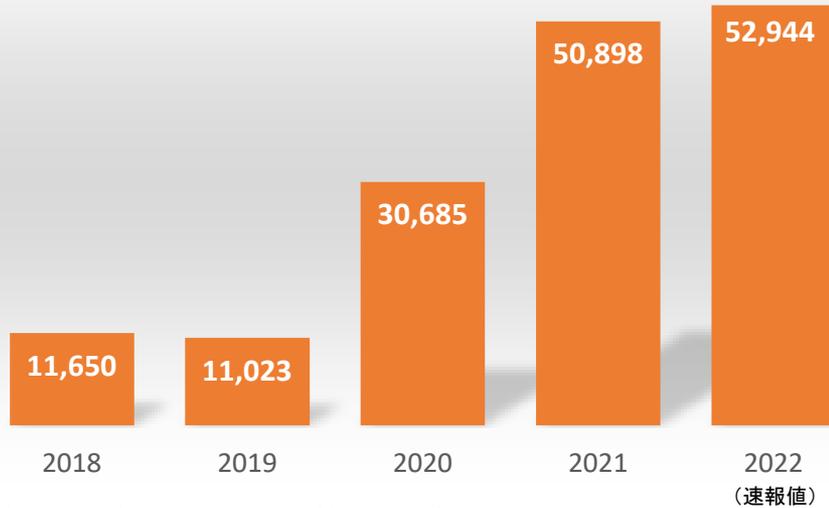
国際郵便物の違反畜産物摘発件数及び重量

年度	2019年	2020年	2021年	2022年 (速報値)
摘発件数 (重量)	11,023件 (15,071 kg)	30,685件 (47,918 kg)	50,898件 (85,703 kg)	52,944件 (85,683 kg)

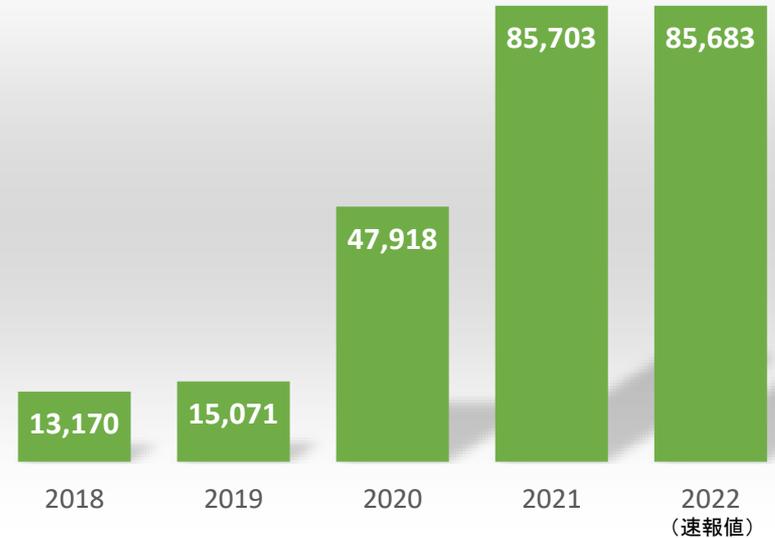


郵便物で持ち込まれた違法畜産物の摘発状況

郵便物による輸入禁止品の件数(件)



郵便物による輸入禁止品の数(kg)



○摘発上位国の状況 (件数順) <2021年>

順位	国名	件数(件)	重量(kg)
1	中国	42,936	65,173
2	ベトナム	3,391	16,498
3	アメリカ	1,226	540
4	タイ	542	679
5	モンゴル	498	390
6	インドネシア	326	706

<2022年(速報値)>

順位	国名	件数(件)	重量(kg)
1	中国	42,020	46,811
2	ベトナム	5,743	33,750
3	アメリカ	1,095	496
4	モンゴル	952	661
5	タイ	891	1,659
6	韓国	288	387

本日の内容

1. 動物検疫の概要
輸入検疫の強化
2. 輸出促進
3. 国内支援 他
4. まとめ

MAFF

Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries

MAFF

Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries



(搬入)

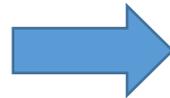


(搬出)



(輸出)

1 相手国政府の受入条件確認



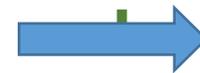
2 輸出検査申請



3 輸出検査の実施



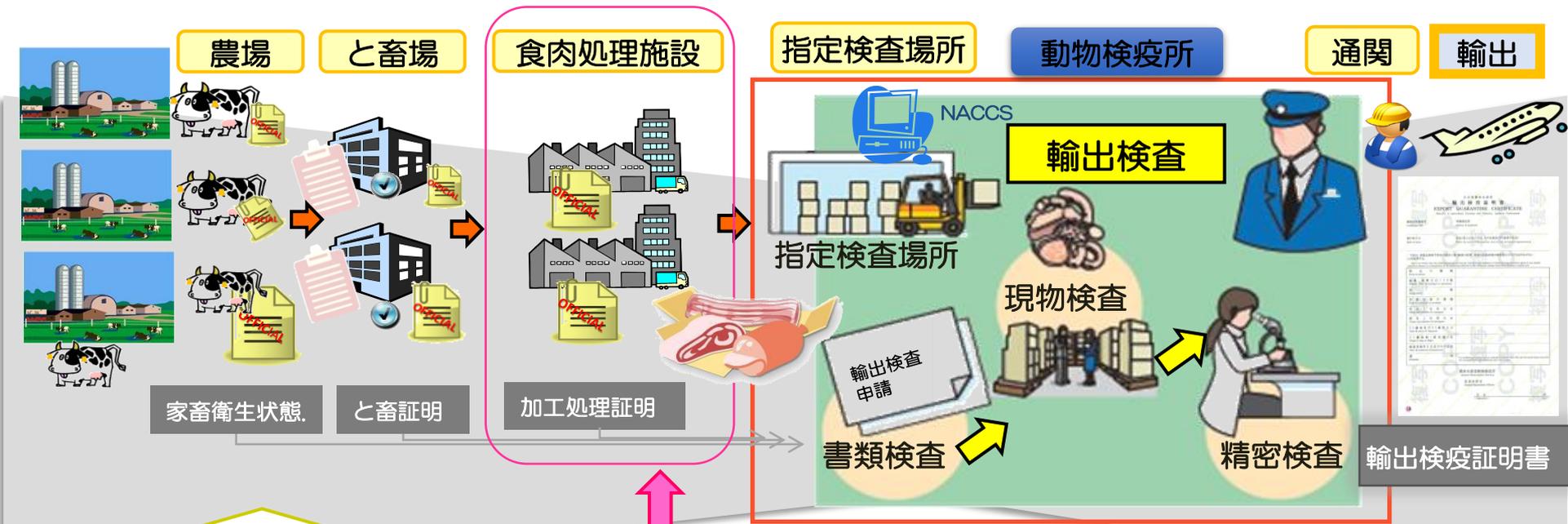
4 輸出検疫証明書の交付



通関手続・輸出許可

検査場所は、動物検疫所または家畜防疫官が指定した場所

牛肉等の畜産物の輸出検査（家畜伝染病予防法）



輸出条件

- + 家畜伝染病発生状況、農場における衛生管理状況の確認
(都道府県家畜保健衛生所：家畜伝染病予防法)
- + と畜場・食肉加工施設における衛生・品質管理状況の確認
←輸出国の認定施設
(地方自治体保健所等：と畜場法、食品衛生法)
- + 保管・輸送中の衛生状態の確認

輸出検査の合理化・効率化

- ★書類検査の一環としての現地調査を実施
輸出先国の条件との適合状況や工場のシステム全体を幅広く確認

 - ☑ 原料・製造工程の管理方法
 - ☑ 作業手順書等
 - ☑ 作業員の教育方法 等

⇒現地調査済み施設として所内で共有

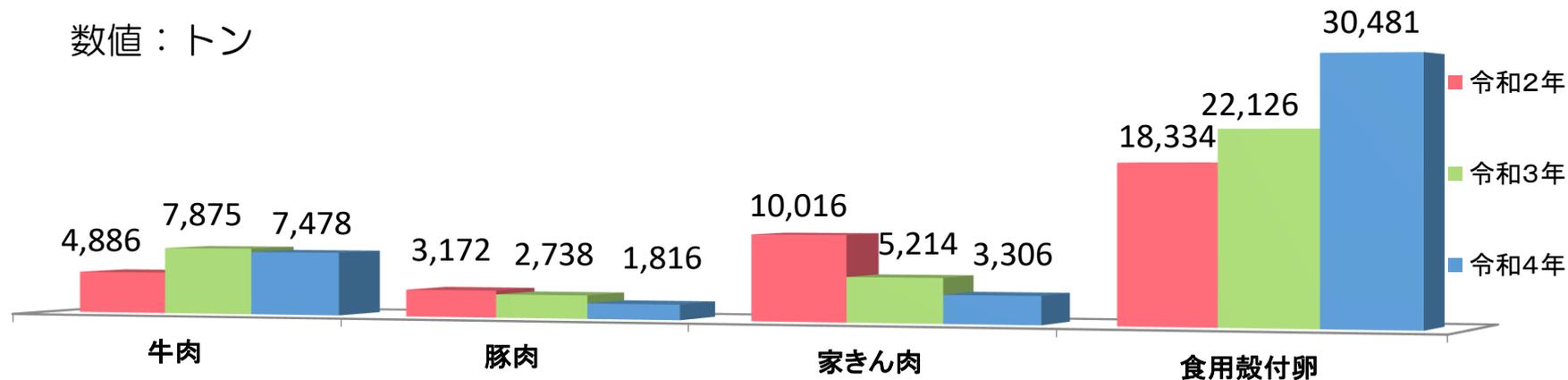
- ★輸出検査時の

 - ☑ 添付書類の省略
(製品説明書等)
 - ☑ 現物検査の省略
(抜き打ちで実施)
 - ☑ サンプル検査を実施
(指定施設への搬入が不要)

輸出者のメリット

主な畜産物の輸出検査実績（令和4年速報値）

数値：トン



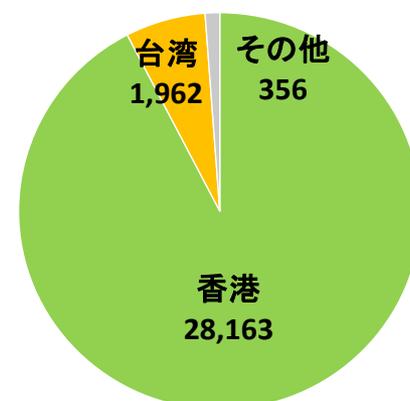
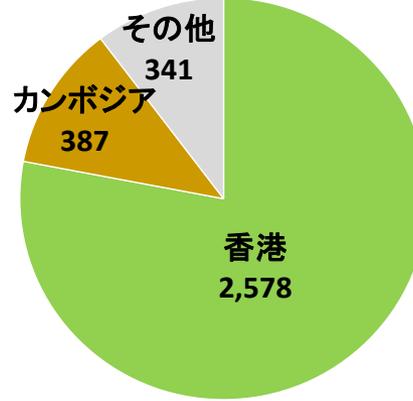
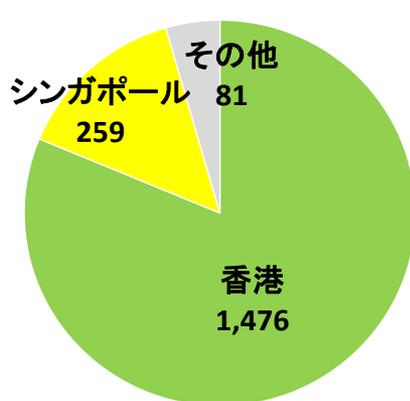
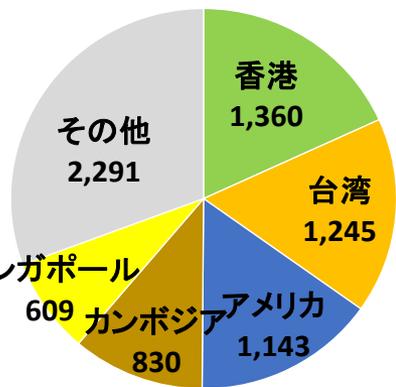
令和4年国別内訳（数値：トン）（速報値）

牛肉

豚肉

家きん肉

食用殻付卵



本日の内容

1. 動物検疫の概要
輸入検疫の強化
2. 輸出促進
3. 国内支援 他
4. まとめ

国内防疫支援の取組

保管している大型防疫資材

国内発生時に備えた 緊急支援体制の整備

● 緊急支援チームの人材確保

- ・特定家畜伝染病防疫指針には殺処分・埋却時の防疫措置を支援する緊急対応に必要な人材

● ワクチン、防疫資材の備蓄、管理

- ・防疫資材の確保、管理
- ・大型防疫資材の利用 等

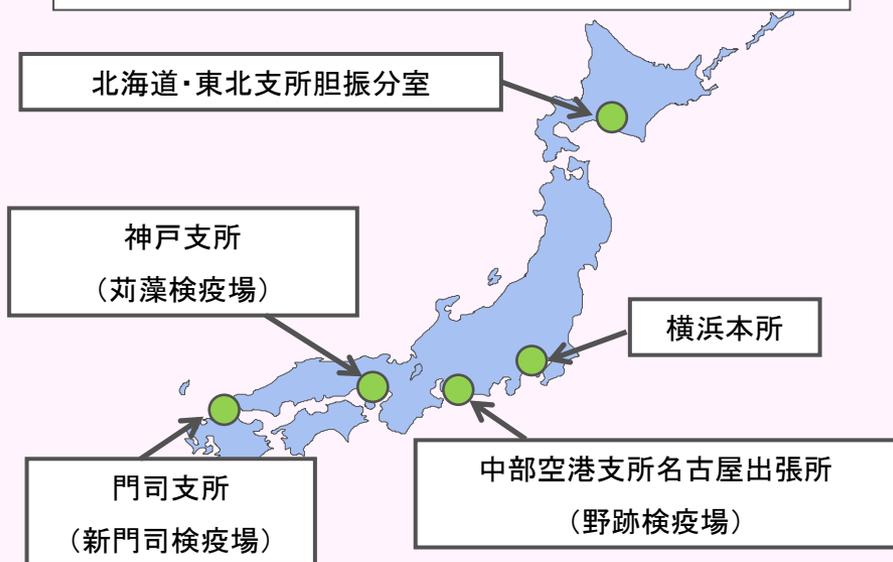
● 関係者との連携強化

- ・都道府県等地方自治体との連携
- ・生産農家等との連携 等



防疫資材の保管 (大型防疫資材)

保管場所



動物検疫所で保管する大型防疫資材

資材名	胆振	横浜	中部	神戸	門司
電気殺処分機	7台	48台	17台	15台	15台
移動式レンダリング装置	1台	1台	1台		1台
盛土用法面保護資材	1式		1式		1式
除染テント	3式	3式	2式		24式
移動式焼却炉(非組立式)			1機		
移動式焼却炉(組立式)			2機		1機
広域防除機			1機		1機
泡殺鳥システム			1機		1機
移動式車両消毒機					5台

● 電気殺処分機



● 移動式レンダリング装置



農場で牛・豚の死体を破碎・加熱処理する装置
 〈処理能力: 豚 2,000頭/日〉

● 盛土用法面保護資材



家畜の死体を地上で埋却するために用いる資材
 〈收容能力 (1式): 豚1,000頭×2セット〉

● 除染テント



発生農家等からの退出時、作業員の除染に利用

● 移動式焼却炉 (左: 非組立式) (右: 組立式)



農場現場で主に家きんの死体等を焼却する装置
 処理能力: 鶏
 (左) 2,400羽/日
 (右) 6,400羽/日

● 広域防除機



畜舎・車両の消毒、汚染物品の消毒に利用

● 泡殺鳥システム



平飼い鶏舎や限られたスペースの中で鶏を殺処分する装置